

## 代表質問質問事項・ 答弁の要旨 (つづき)

### 行政改革の確実な推進で 市民生活を守れ

公明党 高橋 りょう子

〈財政問題〉22年度予算は財源不足とはいえ、臨時財政対策債（赤字地方債）の借り入れは将来への負担になる。思いとどまるべきではなかったか。

市長) 借り入れずに3年ほど頑張ったが、この不況下で27億円の財源不足を生じ苦渋の選択だった。

〈国分寺駅北口再開発〉①総事業費612億円の提示に大変驚いている。その後の協議結果や検証の経過説明を求める。

市長) 事業費増は、大口権利者の転出による補償費。補助金の充当で市財政への負担は一定軽減されるが、尚、現状では事業の遂行は非常に厳しい。目下大口権利者への対応、計画全体の見直し、都への働き掛けなど努力中。

②22年度は権利変換（建物の権利を移す）計画の手続きが予定されている。現況の課題は。

市長) 権利者との交渉、保留床の処分方法、業務床の活用方法などが課題。

③保留床処分が事業成立の成否に関わる問題でもある。見通し確実性はあるのか。

市長) 最大限の努力をする。

〈平和問題について〉今年是被爆65周年。平和の尊さ、核の恐ろしさを子供たちに伝える必要がある。市はどう取り組むのか。

市長) 昨年は平和都市宣言25周年で平和市長会議に加盟。今後も「平和は最大の福祉」との思いで取り組んでいきたい。

〈学校教育〉入学当初の環境変化に適応できない子供が増加し、いわゆる小1問題・中1ギャップが注目されている。市の認識と対応について。

教育長) 中学生では、ほぼ半数に達するとの調査もあり深刻。本市小学校の場合、非常勤講師の配置等（38人以上クラス）で対応もある。都は22年度から一定の改善を行う予定。それに期待したい。

〈子育て・子育て支援〉待機児解消の取組みは。

市長) 南町、西元町など3ヶ所に認可保育所を設置予定で300名の受け入れ増員予定。きょうだい同一園への通園、地域的偏り解消に努力する。

②ひかり保育園本園舎建設の見通し、目処は。

市長) 複数権利者と交渉中。22年度中に確保。

〈保健・医療〉①22年度開始のヒブワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン公費助成は評価する。今後は小児の肺炎球菌ワクチン公費助成についても提案したい。

市長) 医師会、関係者と協議検討し対応を図る。

②22年度の女性のがん検診への取組みは。

市長) 21年度乳がん検診での混乱については陳謝。今後、医師会や現場の声を受け入れ、成果のあがる物とする。

〈ぶんバス〉福祉目的の地域バス「ぶんバス」に、交通不便地域の北町、万葉、東恋ヶ窪からの要望が強い。一定の方向性を示せ。

市長) 要望は認識しているが課題あり。努力する。

〈ごみ問題〉これからは、ごみの減量化が必須。その為の具体的な方策を示せ。

市長) 計画に基づき、給食残渣、剪定枝の堆肥化、

生ごみ処理機の助成、事業系ごみ手数料の改定を図る。

〈商工業振興〉不況下で経営に苦しむ本市の中小企業経営者が利用できる「小口事業資金融資制度」の更なる案内、啓発を願いたい。

市長) 利用状況を把握し、周知徹底を図る所存。

〈地域主権の確立〉市民自治拡充推進には参加と協働。情報共有の仕組みづくりの具体策は。

市長) 事業評価制度も精査し、市民が協働・参画しやすい仕組みづくりをしたい。

### 方針なき施政方針！ 明確な市長方針を示せ！

民主党・無所属クラブ 木村 徳

※代表質問は、市長の新年度施政方針（＝予算案の元となる考え方）に対して行われるものですが今回、代表質問後の予算特別委員会におきまして、施政方針の変更・変更の撤回、予算案の撤回・再提案、更に暫定予算の提案、と行政側が大混乱しました。そして施政方針も通常2月にはホームページで公開、4月1日に市報にも掲載されるものが、3月29日の議会最終日に至ってもホームページには掲載されず、4月1日号の市報掲載も見送られていたことは、市長の施政方針に対する議会の代表質問を軽んじていると言わざるを得ません。

木村) 22年度には15億6千万円にも及ぶ臨時財政対策債（＝赤字地方債。経常経費等で消えてしまい、後に何も残らない性格の借金）を発行する一方、安易に発行し続けるべきではないとも市長は述べているが23年度以降、発行しなくても平気であるとの見通し、根拠は何か。

市長) 23年度に収支均衡型予算にしたい。実現すれば赤字地方債は発行しなくても済む。

木村) では、収支均衡型予算にできる根拠は。市長) これから進めていくことだ。10月までにはアウトソーシング実施計画を立てる。また、枠配分予算、人件費改革等を進めていく。

（※23年度には赤字地方債を発行しなくても財政が保てる根拠は最後まで示せませんでした）

木村) アウトソーシングについて、保育園や給食調理員の民間委託はどのように考えるか。

市長) 具体的な対象として考えていかなければならないと考える。

木村) 職員の意識改革に関しては、毎年、施政方針に「取り組みます」と書かれているが、これまでどのように成果を得たのか。

市長) 時間がかかって毎年同じ言葉を使わざるを得ない状況が続いていることは申し訳ない。課ごとのマネジメントを一層強化して目標設定していく。それらは給料・手当に反映していく。

木村) それは大事だが最大の影響を与えるのは市長だ。市長は北口再開発に「政治生命を賭ける」と述べた。政治家が政治生命を賭けるということは、達成できなければ職を辞するということだと認識するが、その意味で述べたのか。

市長) 最大限の決意の言葉だ。北口再開発が進められない事態は想定しておらず、全力で取り組み、途中で投げ出さないということだ。

木村) 現に隣の小金井市長はかつて武蔵小金井駅前再開発に関わり、職を辞して出直し選挙を行った。そういう決断があるのか。

市長) そのくらいの強い決意を持たなければ市民の理解は得られないと考えている。

木村) 権利者の新たな転出意向による補償金等

の影響で90億円も事業費が増え、一方市が売却困難な保留床を抱え込むことになり得るが、市が財政的損失を受けずにどう対処するのか。

市長) あらゆる方策を検討し、市財政に悪影響を与えぬようにするが今は具体的に言えない。

木村) 市長就任後8年8ヶ月に7年11カ月の事業延伸を行い、進んでいない。期限を区切れ。

市長) 再延伸は避けるべきだが、不透明で難しい問題もあり、リミットは申し上げられない。

### くらしを守る市政への 転換を求めて

日本共産党国分寺市議団 幸野 おさむ

《施政方針と予算案の全体像について》

深刻な状況に直面する市民の声に対し、不十分ながらも、一昨年来の緊急生活安全対策の継続・拡充など一定の前進はある。しかし保育料や国保税の改定により新たな市民負担が生じている。さらに破綻している大型事業計画に固執し続ける結果、市の財政まで破綻させる可能性を秘めた方針であり、中長期的には市民のくらし、生活を守る視点が極端に欠如している方針・予算案である。

●くらしの問題について

問) 保育料の値上げや国保税の改定など、一定の市民に対して、負担増が押し付けられている。くらしの実態を考えれば、負担をかけずにくらしを支える政治が必要であり、緊急安全対策の方向性、中身とは相反するものだ。

市長) 低所得者への配慮、激変緩和措置をしている。緊急安全対策と政治姿勢は異なるものではない。一貫していると考えている。

●国分寺駅の北口再開発について

問) くらしの財源を確保するためには、市が抱える大型事業の経費を縮減していくことが必要だ。北口について「現在のスケジュールに沿って進める」ということは、破綻している計画を進めるものであり、市議会の附帯決議を完全に無視している。絶対に認められない。施政方針から撤回せよ。

市長) 今は現在の取り組みに全力を挙げる時だ。方向転換を表明するときではない。

●西武国分寺線の立体交差事業について

問) 市長は昨年の市長選挙で『立体交差については延伸し、当面の安全対策を検討している』と法定ビラに書いて市民に公約した。当面の安全対策はどうしたのか。

市長) 抜本的な打開策がない。東京都の知恵などをお借りして完成させる方策を探していく。法定1号ビラは今までの実績と現在取り組んでいる状況について記しているのが公約とは言わない。2号ビラが公約だ。

※「1号ビラと2号ビラの間に変節したのなら、二重三重に市民を欺く行為だ」と指摘し、早急な安全対策を求めました。

●「行政改革」について

問) 市長は施政方針で『すべての業務をアウト

次ページにつづく▶